



平戸市長
黒田成彦

イベントや地域行事などが軒並み中止や延期に追い込まれ、交流人口の増大を目指した効果的な戦略も実施することができませんでした。

この間、観光商工事業者の皆様のご苦悩や、これに連動し商取引が停滞することで生産活動に支障をきたした農林水産関係の生産者の皆様のご苦勞に思いを寄せる毎日でした。政府主導で始まりました「GOTOキャンペーン」によって一定の効果をもたらしたものの、根本的な回復基調は未だ道半ばであることは否めません。一方で、高齢化の進展や若年層の流出などは歯止めがかからず、人口減

少傾向は待ったなしの課題として横たわっています。ポストコロナに備



生月地区では、子どもからお年寄りまで地区公民館に集まって、一緒に楽しい時間を過ごす「喫茶店来ないよ」が行われています。

謹賀新年

新

年おめでとうございます。市民の皆様方におかれましては、令和3年の新春をお健やかに迎えにいられたことを心からお喜び申し上げますとともに、常に市政執行に対し深いご理解と温かいご支援をお寄せ頂きましたことに改めて厚く御礼を申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、世界を震撼させた新型コロナウイルスが猛威を振るい地球規模で広がり続けましたが、この「見えざる敵」との闘いを制する即効的手段を見出すことができず、終息の見通しが立たないままに1年を過ぎることとなりました。最近に至つてようやく欧米製薬会社のうちアメリカの大手ファイザー社によるワクチンの開発が進みつつありますが、日本国内における接種実用化は未だ時間を要する状況であります。

平戸市内では1名の擬陽性の報告がなされましたが結果的に感染者はゼロの状況が維持されている一方、国内では2千人を超える死者が報告されるなど、連日の報道も相まって日常生活を覆いつくす閉塞感と経済活動の収縮による停滞感の中で新年を迎えることとなりました。

昨年は予定されていたさまざまな

新型コロナウイルス

「見えざる敵」の脅威に屈せず

市民一人一人の創意工夫と意欲的な活動を後押しして

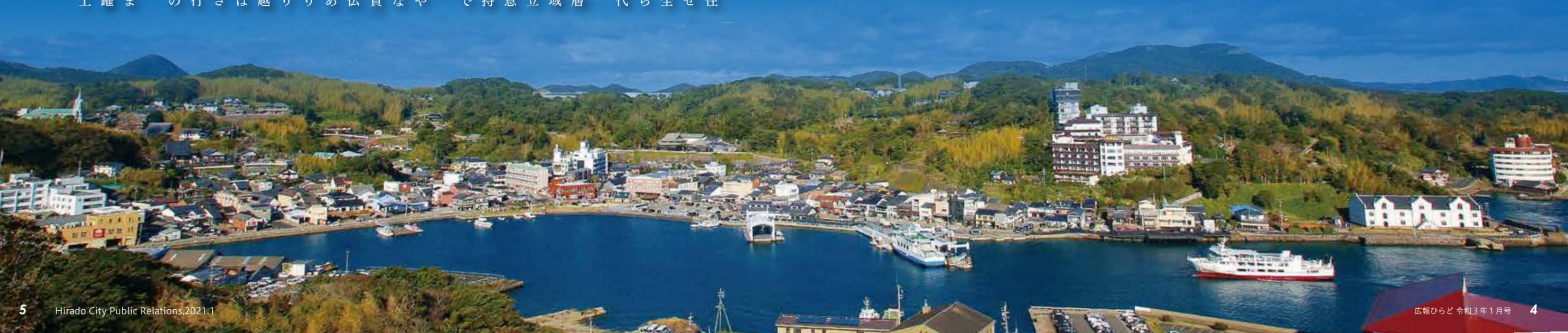
「安全で住みやすい田舎・平戸」を構築

えた「新しい生活様式」を念頭に移住してくださる方々も少なくありませんが、そうした意味において「安全で住みやすい田舎」である平戸ならではの役割が再評価されている時代なのかもしれません。

こうした状況の中、市内各界各層の皆様のご尽力により、全ての地域において「まちづくり協議会」が設立され、市民一人一人の創意工夫と意欲的かつ具体的な活動を通して、持続可能な支え合う社会の構築がすでに始まっています。

私たちは、これまでの固定観念や成功体験を克服し、将来を見据えながら、地域に遺された有形無形の貴重な資源や遺伝子を、次の世代に伝承し続けなければならない使命があります。厳しい時代の到来ではあります。市民の皆様との信頼をより強固なものにし力を合わせて乗り越えてまいりましょう。本年10月には市長選挙、市議会議員選挙も予定されており、さらなる節目に向けて行政と議会も一致団結してなお一層の努力を重ねてまいります。

結びに、この1年が皆様にとりまして、限りなくお幸せで明るい飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます。年頭のごあいさつとします。





平戸市教育長
小川 茂敏

明 けましておめでとうございます。昨年、年があけたばかりのころは、未知のウイルスが瞬く間に世界を席卷するなど考えてもみないことでした。学校は3月の臨時休業、夏休みの短縮などの措置をとり、あらゆる教育関係事業も中止や縮小を余儀なくされました。感染症対策を講じながら如何にして事を進めるかを追い求める日々であります。

このような中、GIGAスクール教育構想による小中学生1人1台のタブレット端末配備が実現するなど、子どもたちの学びが大きな転換期を迎えようとしています。本市では時代に即応し、ICT教育に先進的に取り組み、授業改善を進めながら学力の定着を図り、子どもたちの「夢・憧れ・志」を育む教育に努めていく所存です。

このたび、本市教育行政の向う5年間の指針となる「第3期教育振興基本計画」を策定しました。その基本理念には「ふるさとに誇りを持ち明日を担う人材の育成と個性豊かな地域文化の振興」と掲げました。平戸の豊かな自然や多くの歴史文化は地域の宝であり、そこで育つ経験がこれからの生きる礎・希望ともなるようにふるさと教育を一層充実したいと考えています。また、市民皆様がいっしょでもどこでも学べる体制と学習機会の充実のために、学びの環境や体制の充実に向けていきますので、皆さんの一層の支援と協力をよろしくお願います。

新型コロナウイルス感染症を一刻も早く克服し、明るく素晴らしい年となることを祈念して、新年のごあいさつとします。

明 けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、お健やかにお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の7月まで1年間県議会副議長として郷土平戸市は勿論の事、長崎県全体の振興のため活動してきました。この経験を十分に役立てながら今後の議員活動を通じていきたいと思っております。

さて、昨年1年間は振り返ると、世界中が振り回された新型コロナウィルスの感染問題を取り上げなければなら

ないと思います。この感染症の影響により、多くの感染者、死亡者が出て、経済的にも大きな不況に見舞われましました。このことを克服していくため、国、県、各自自治体が必要な補正予算を編成し、今までのない財政出動が余儀なくされました。

令和3年度は、新たな総合計画の初年度にあたることから、その基本理念の実現に向けて、本県の最重要課題である人口対策をはじめ、計画に掲げる施策を着実に推進するとともに、新型コロナウィルス感染症や頻発する

自然災害などの課題解決に努める旨の知事の決意が11月定例県議会で述べられています。これからの県の企画や計画などを十分に精査し、市民の皆さんと意思の疎通を図り、平戸市と長崎県の橋渡し役として、活動してまいります。

自然災害などの課題解決に努める旨の知事の決意が11月定例県議会で述べられています。これからの県の企画や計画などを十分に精査し、市民の皆さんと意思の疎通を図り、平戸市と長崎県の橋渡し役として、活動してまいります。

結びに、平戸市の益々のご繁栄と市民の皆様のご健康にて、今年も良い年でありますよう心よりご祈念申し上げます。



長崎県議会議員
西川 克己

ポストコロナ時代に向けて これまで以上に迅速かつ的確な 議会運営に努めていきます

明 けましておめでとうございます。平戸市議会を代表しまして一言新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、輝かしい初春を新たな希望と期待の中で迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、日ごろから市議会活動に対し温かいご理解・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

私も議長に就任し1年2カ月が過ぎようとしています。新たな年を迎え、責任

の重さを改めて感じるとともに、本市のさらなる発展のために、引き続き努力していく決意を新たにいたします。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い4月には日本全国に緊急事態宣言が発令されるなど、日常生活から経済活動、イベント開催などあらゆる活動に大きな影響を及ぼし、本市においても、平戸城懐柔櫓の「城泊」の延期をはじめ各種行事などの中止や規模縮小を余儀なくされました。市議会としても、新型コロナウイルス感染症の影響により困窮する市民や事業者の生活を守るため、本市独自の緊急経済対策を早急に実施するよう市長に提言したところ

です。また、9月初旬には、台風9号・10号の接近により警戒レベル4となる「避難勧告」が市内全域に発令され、コロナ禍の中にもかかわらず、市民が避難するとともに、平戸大橋、生月大橋の全面通行止め、長時間にわたる停電や電話の不通など市民生活に大きな影響を与えました。これまでの避難所のあり方をはじめ防災体制の再考の必要性を強く感じた1年でもありました。

さて、今年の干支は「丑」です。丑年は、「我慢(耐える)の年」「これから発展する前触れ(芽が出る)のような年」になるといわれています。現在、新型コロナウイルス感染症に有効なワクチンの開発も進められています。まさに今は耐える時であり、まさに今は耐える時であり、新型コロナウイルスの脅威を克服し、発展へと変革を始めるためにも貴重な1年となるもの

と信じるところであります。政府は「新たな日常」の確立と経済再生・地域活性化の実現を目指しポストコロナの時代におけるデジタル化への転換を強く推進しています。

議会としても、今回のコロナ禍だけでなく、災害時など有事の際には政策実行の判断にスピード感を持って行う必要があります。ポストコロナ時代に向けた変革に対応しながら、これまで以上に迅速かつ的確な議会運営に努めていきたいと考えています。今後とも、本市が抱えるさまざまな課題の解決に向け、市民目線に立ち、積極的な議員活動を展開するとともに、議会のさらなる活性化を図ってまいりますので、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、市民の皆様にとりまして、本年が活気にあふれ、幸多き1年となりますことをご祈念申し上げます。新年のごあいさつとします。



平戸市議会議長
山内 清二

明 けましておめでとうございます。平戸市議会を代表しまして一言新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、輝かしい初春を新たな希望と期待の中で迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、日ごろから市議会活動に対し温かいご理解・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

私も議長に就任し1年2カ月が過ぎようとしています。新たな年を迎え、責任

の重さを改めて感じるとともに、本市のさらなる発展のために、引き続き努力していく決意を新たにいたします。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い4月には日本全国に緊急事態宣言が発令されるなど、日常生活から経済活動、イベント開催などあらゆる活動に大きな影響を及ぼし、本市においても、平戸城懐柔櫓の「城泊」の延期をはじめ各種行事などの中止や規模縮小を余儀なくされました。市議会としても、新型コロナウイルス感染症の影響により困窮する市民や事業者の生活を守るため、本市独自の緊急経済対策を早急に実施するよう市長に提言したところ

です。また、9月初旬には、台風9号・10号の接近により警戒レベル4となる「避難勧告」が市内全域に発令され、コロナ禍の中にもかかわらず、市民が避難するとともに、平戸大橋、生月大橋の全面通行止め、長時間にわたる停電や電話の不通など市民生活に大きな影響を与えました。これまでの避難所のあり方をはじめ防災体制の再考の必要性を強く感じた1年でもありました。

さて、今年の干支は「丑」です。丑年は、「我慢(耐える)の年」「これから発展する前触れ(芽が出る)のような年」になるといわれています。現在、新型コロナウイルス感染症に有効なワクチンの開発も進められています。まさに今は耐える時であり、まさに今は耐える時であり、新型コロナウイルスの脅威を克服し、発展へと変革を始めるためにも貴重な1年となるもの



生月大橋付近で発生した大規模土砂崩れ